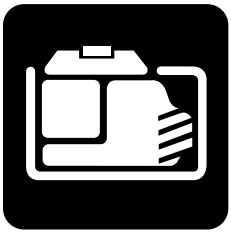
YAMAHA

携帯発電機



取扱説明書

EF1400
EF2300
EF2300S
EF2300SE

ご使用前に、かならず取扱説明書・本体ラベルをお読みになり、内容を理解してからお使いください。

331085
7NJ-28199-03

おねがい

ヤマハ商品をお買上げいただき、誠にありがとうございます。
本書には、商品の安全性に関する情報と商品の正しい取り扱い方法と簡単な点検・調整について説明してあります。
万一、取り扱いを誤まると重大な事故や故障の原因となります。
あなた自身の安全、環境や住民の方との調和、および商品の性能を十分に発揮させるために、商品の取り扱いを十分ご存じの方も、商品独自の装備・取り扱いがありますので、ご使用前には必ず本書をよくお読みいただき、ご使用時には携帯してくださいますようお願い申し上げます。

＊本書では正しい取り扱いおよび点検・調整に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ 安全に係る注意情報を意味しています。

⚠警　告 取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

⚠注　意 取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要　点 正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

＊仕様変更などにより、本書の写真や内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。
＊保証書はよくお読みいただき裏面のお買い上げ日、販売店の記入をご確認ください。
＊本書は大切に保管し、わからないことや不具合が生じたときにお読みください。なお本機の転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。

本体識別番号

●本体識別番号

下記空白欄に商品名、本体識別番号（識別番号ラベル①）を記入して問い合わせや部品を注文するときの参考にしてください。

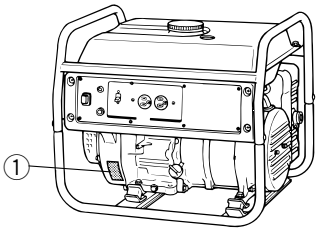
また万一の盗難時のために識別番号を他の資料にも記録しておいてください。

商　品　名	
識 別 番 号	
購入年月日	年　月　日
	電話

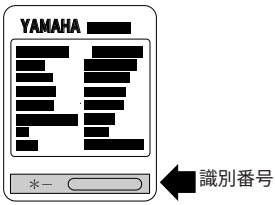
識別番号の最初の（＊）の複数桁は商品形式番号を表わし、（　　）の複数桁は商品の製造番号を表します。

識別番号は保証書の裏面に記入してください。

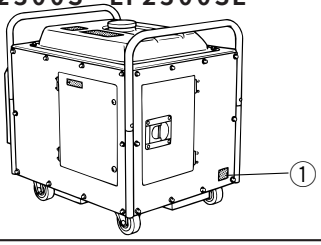
EF1400・EF2300



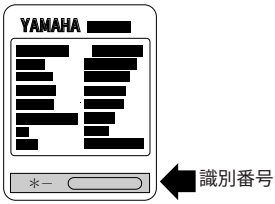
識別番号ラベル①



EF2300S・EF2300SE



識別番号ラベル①



お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は下記の「お客様相談窓口」へお願いいたします。

ヤマハ発動機　特機事業部

サービスグループ	0538(37)4410	〒438-8501	静岡県磐田市新貝2500
国内販売直轄			
北海道営業所	011(612)1063	〒063-0801	札幌市西区24軒1条7-3-13
東日本営業所東北販売課	022(284)6121	〒983-0035	仙台市宮城野区日の出町3-8-36
東日本営業所	048(663)8411	〒331-0043	大宮市大成町3-311-1
中部営業所	052(917)1554	〒462-8555	名古屋市北区辻本通り2丁目34
西日本営業所	06(6535)4481	〒550-0014	大阪市西区北堀江3-6-13
西日本営業所中国販売課	082(581)1173	〒734-0022	広島市南区東雲3-16-8
西日本営業所四国販売課	087(866)8833	〒760-0079	高松市松縄町51-15
九州営業所	092(411)3607	〒812-0006	福岡市博多区上牟田1-11-1

【ご注意】

1.土曜、日曜、祝日、年末年始は休業させていただきます。
その他夏期等休業させていただく場合があります。

2.区画整理、電話局の新増設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

定期点検・整備ご相談窓口のご案内

ヤマハ商品の定期点検および整備に関しましては、同梱のヤマハ発電機サービス店にご遠慮無くご用命ください。

【ご注意】

1.整備はサービス店へのお持込みを原則とします。

2.現地整備の場合には別途出張料金を申し受けます。

3.土曜、日曜、祝日、年末年始、その他夏期等休業させていただく場合があります。

4.区画整理、電話局の新増設などにより、住所、電話番号が変更になることがありますのであらかじめご了承ください。

目次

おねがい.....表紙裏（表2）
本体識別番号.....P1
お客様ご相談窓口のご案内.....P2
定期点検・整備ご相談窓口のご案内.....P2
安全にお使いいただくために.....P4
●⚠警告.....P4
●⚠注意.....P5
●環境への配慮.....P5
保管・格納.....P6
●保管.....P6
●格納.....P8
重要ラベル（EF1400・EF2300）....P10
●⚠警告ラベル.....P10
●⚠注意ラベル.....P10
●その他ラベル.....P11
重要ラベル（EF2300S・EF2300SE）..P12
●⚠警告ラベル.....P12
●⚠注意ラベル.....P12
●その他ラベル.....P13
各部の名称（EF1400・EF2300）....P14
各部の名称（EF2300S・
EF2300SE）.....P16
給油.....P18
●燃料（無鉛ガソリン）の給油.....P18
●エンジンオイルの給油.....P19～
●バッテリ電解液の注液.....P21
各部の取り扱い.....P22
●オイル警告装置.....P22
●車輪ロック.....P22
●エンジンスイッチ.....P23
●バッテリ.....P23
●交流スイッチ.....P24
●オイル警告ランプ.....P24
●パイロットランプ.....P24
●燃料コック.....P25
●チョークレバー.....P25
●チョークノブ.....P25
●アース.....P25
●リコイルスタータハンドル.....P25
●携帯工具.....P25
始業点検.....P26
●燃料（無鉛ガソリン）の点検.....P26
●エンジンオイルの点検.....P26
●その他の点検.....P26
正しい運転操作.....P27
●エンジンの始動（EF1400・
EF2300・EF2300S）.....P27～
●エンジンの始動（EF2300SE）.....P30
●交流電源の取りだし方.....P31
●交流電源の使用可能範囲.....P32
●エンジンの停止.....P33
点検.....P34
●始業点検.....P34
●定期点検.....P34
●点検項目.....P35
定期運転・定期交換.....P35
●定期運転.....P35
●定期交換.....P35
やさしい点検・調整.....P36
●エンジンオイルの交換.....P36～
●スパークプラグの点検と清掃.....P39
●エアクリーナエレメントの清掃.....P40～
●燃料タンクフィルタの清掃.....P43
●フューエルストレーナの清掃.....P44
●バッテリの点検.....P45～
故障診断.....P48
●エンジンが始動しない.....P48
●電気が出ない.....P48
仕様諸元.....P49～
索引.....巻末

安全にお使いいただくために　必ずお守りください。

- 運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書とその付属書類、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

⚠警　告（行為を禁止する警告文）

- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしないでください。
- 排気ガス中毒のおそれあり、換気の悪い場所で使用しないでください。
  排気ガスは一酸化炭素など有害成分が含まれていますので室内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク、マンホールなど換気の悪い場所、建物や遮へい物で風通しの悪い排気ガスがこもる場所で使用しないでください。
- 商品の周囲を囲ったり、箱をかぶせて使用しないでください。
- やけどのおそれあり、使用中、使用直後はマフラ部が熱くなっているのでマフラやマフラ周辺のプロテクタには手足を直接触れないでください。
- 火災のおそれあり、給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 感電、火災のおそれあり、電力会社の電気配線に接続しないでください。接続しますと電気器具や商品の故障、または火災や電気工事関係者の感電事故の原因となります。
- 感電のおそれあり、ぬれた手で商品を操作しないでください。
- 感電のおそれあり、コンセントにピンや針金などの金属物を差し込まないでください。
- 感電やけがのおそれあり、運転中は点検整備を行なわないでください。
- 感電やけがのおそれあり、改造したり、部品を取り外したまま使用しないでください。

⚠警　告（行為を指示する警告文）

- 商品を他人に貸すときは、必ず取扱説明書もいっしょに渡してください。
- 排気ガス中毒や火災のおそれあり、排気口を建物や設備から１メートル以上離して使用してください。
- 火災のおそれあり、燃料の給油はエンジンを停止してから行なってください。
  燃料のガソリンは、高い引火性と爆発性がありますので、取り扱いには十分注意を払ってください。特にエンジン始動前には、ガソリンの漏れがないことを確認してください。
- 火災のおそれあり、給油時、こぼれた燃料は布きれなどできれいにふき取ってください。
- 燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹸と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。
- 燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合には、ただちに医師の診察を受けてください。

安全にお使いいただくために　必ずお守りください。

⚠注 意（行為を禁止する注意文）

- けがのおそれあり、傾斜させて使用しないでください。
- けがのおそれあり、運転中は移動させないでください。
- けがのおそれあり、商品の回転部に棒や針金を入れないでください。
- 感電のおそれあり、運転中はスパークプラグに触らないでください。
- 感電のおそれあり、雨や雪の中で使用しないでください。
- 感電、けがのおそれあり、子供に使用させないでください。
- 感電、けがのおそれあり、エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。
- 火災のおそれあり、商品の周囲や下に危険物（油脂類、セルロイド、火薬など)や燃えやすい物（枯れ草、わらくず、紙くず、木くずなどの可燃物）を置かないでください。
- 火災のおそれあり、定格出力を超えた過負荷で使用しないでください。

⚠注 意（行為を指示する注意文）

- 火災のおそれあり、燃料の種類と規定容量を守って使用してください。
- 商品を自動車などで運搬する場合には、倒れないようにしっかり固定してください。
- 毎回使用前に行なう始業点検や定期点検は必ず実施してください。
- 使用中に音、臭気、振動などの異常を感じたら、直ちにエンジンを停止して販売店もしくはサービス店の点検を受けてください。

環境への配慮

将来、廃棄される場合およびバッテリ、廃油等の廃棄処理をされるときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

保管・格納

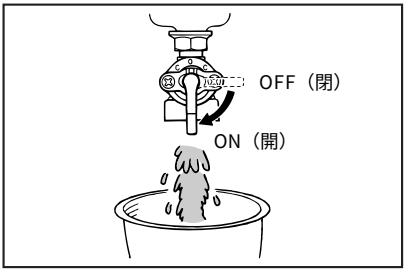
● **保管**

使用後、または定期運転後次回の使用が３ヶ月以降になる場合は、１～４の作業を行なって保管し、次に使用する時に備えてください。

⚠注　意

実施しないとキャブレタ内の燃料が変質して、エンジンの始動が困難になる場合があります。

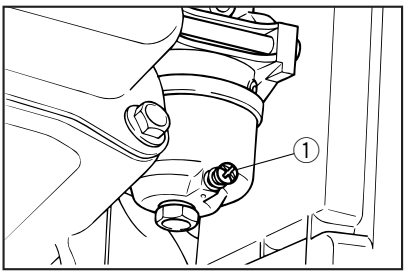
1.燃料コックのストレーナカップを外します。
2.完全に燃料タンク内の燃料を抜きます。



⚠注　意

こぼれた燃料はただちに布きれ等で完全にふきとってください。

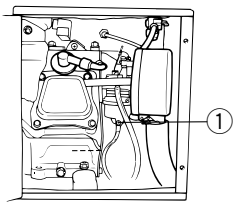
3.キャブレタのドレンスクリュ①をドライバ⊕で弛めて燃料を抜きます。



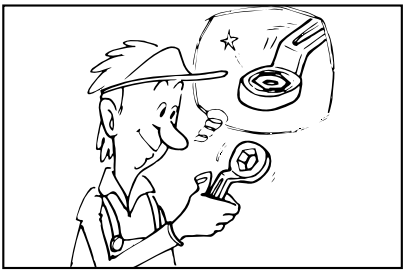
⚠注　意

こぼれた燃料はただちに布きれ等で完全にふきとってください。

EF2300S・EF2300SE



4.ゆるみがあれば各ボルト・ナットを増し締めします。



5.室内で湿気が少なく換気のよい場所に保管します。

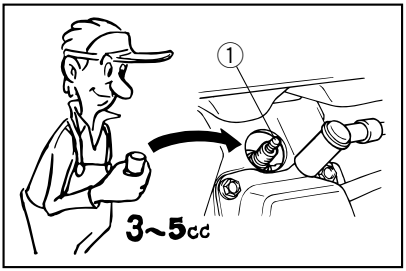
保管・格納（つづき）

- **格納**

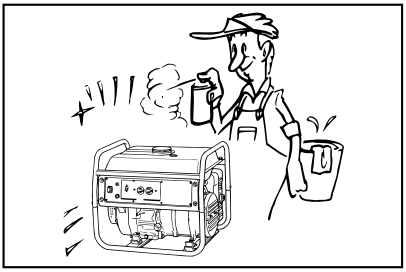
  長期間にわたって使用しない場合は、次のことを行なって格納し、次に使用する時に備えてください。

1. 保管項目の１～3の作業を行ないます。

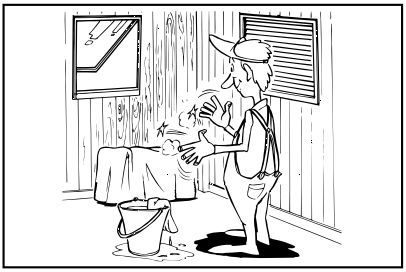
2. スパークプラグ①をはずしプラグ孔より2サイクルオイルを3～5cc給油します。
3. スタータロープを2～3回引いた後、スパークプラグを取り付けます。
4. スタータロープを引き重くなった状態（圧縮状態）にします。



5.各部をきれいに清掃して防錆処理をします。



6.発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気のよい場所に保管します。

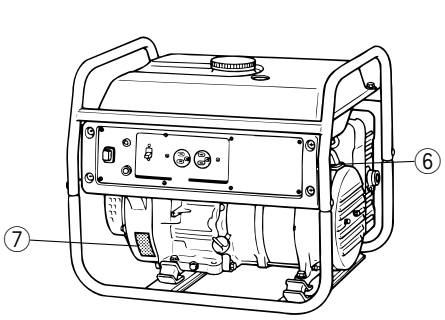


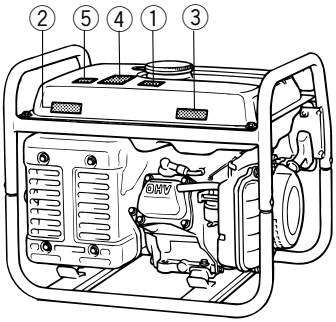
重要ラベル (EF1400・EF2300)

商品本体に貼付されているラベルすべてを熟読し正しくご使用ください。

要　点

ラベルは常に手入れを行ない、破れたりはがれたりした場合は販売店にご相談して、ただちに新しいものと交換してください。





⚠警　告 ラベル

①

⚠ 警　告

火気厳禁

火災や爆発のおそれあり
- 給油中はエンジン停止のこと。
- ガソリン給油中に火気を近づけないこと。
- こぼれたガソリンは完全に拭き取ること。
- 燃料は赤レベル(規定量)以上入れないこと。
- 可燃物のそばで使用しないこと。
- 建物・設備に排気を向けないこと。

感電や火災のおそれあり
- 電力会社からの電気配線に接続しないこと。

感電のおそれあり
- 雨や雪の中で使用しないこと。
- コンセントに濡れた手でさわらないこと。

排気ガス中毒のおそれあり
- 屋内など換気の悪い場所で使用しないこと。
- 人・建物・設備に排気を向けないこと。

⚠ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。

7TA-24162-01

⚠注　意 ラベル

②

⚠警　告

やけどのおそれあり、マフラーにさわらないこと。　高温注意

7RA-28176-00

3③

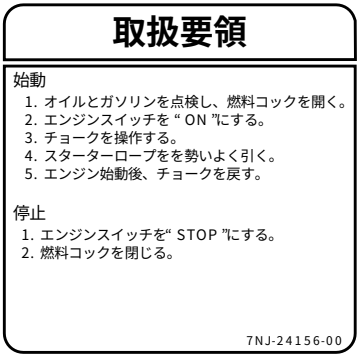
⚠注　意

感電のおそれあり、スパークプラグにさわらないこと。　高電圧注意

7RA-2415A-00

その他ラベル

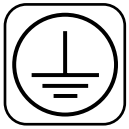
④**取扱要領**



⑤**排気方向**

796-2415E-00

⑥**アース**



7NJ-87261-00

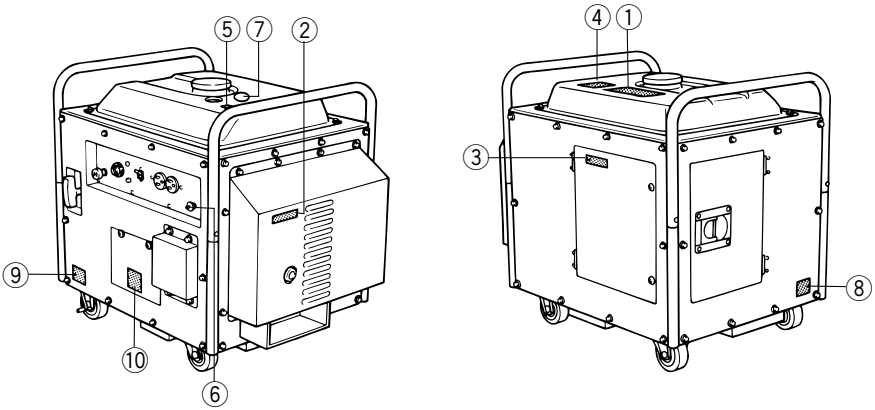
⑦**識別番号（Ｐ１参照）**

重要ラベル (EF2300S・EF2300SE)

商品本体に貼付されているラベルすべてを熟読し正しくご使用ください。

要　点

ラベルは常に手入れを行ない、破れたりはがれたりした場合は販売店にご相談して、ただちに新しいものと交換してください。



⚠警　告　ラベル

①

⚠ 警　告

火災や爆発のおそれあり
•給油中はエンジン停止のこと。
•ガソリン給油中に火気を近づけないこと。
•こぼれたガソリンは完全に拭き取ること。
•燃料は赤レベル(規定量)以上入れないこと。
•可燃物のそばで使用しないこと。
•建物・設備に排気を向けないこと。

火気厳禁

排気ガス中毒のおそれあり
•屋内など換気の悪い場所で使用しないこと。
•人・建物・設備に排気を向けないこと。

感電や火災のおそれあり
•電力会社からの電気配線に接続しないこと。

感電のおそれあり
•雨や雪の中で使用しないこと。
•コンセントに濡れた手でさわらないこと。

⚠ 注　意

ご使用前に必ず取扱説明書をよく読んで安全にお使いください。

7TA-24162-01

⚠注　意　ラベル

②

⚠警　告

やけどのおそれあり、マフラーにさわらないこと。　高温注意

7RA-28176-00

③

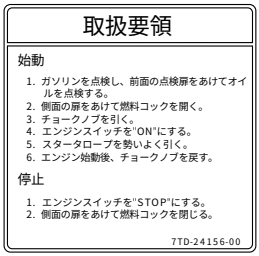
⚠注　意

感電のおそれあり、スパークプラグにさわらないこと。　高電圧注意

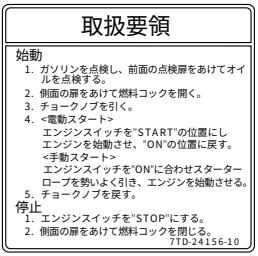
7RA-2415A-00

その他ラベル

④取扱要領（EF2300S）



④取扱要領（EF2300SE）



⑤排気方向

796-2415E-00

⑥アース

7NJ-87261-00

⑦燃料指定（ガソリン専用）

7K3-21788-00

⑧識別番号（P１参照）

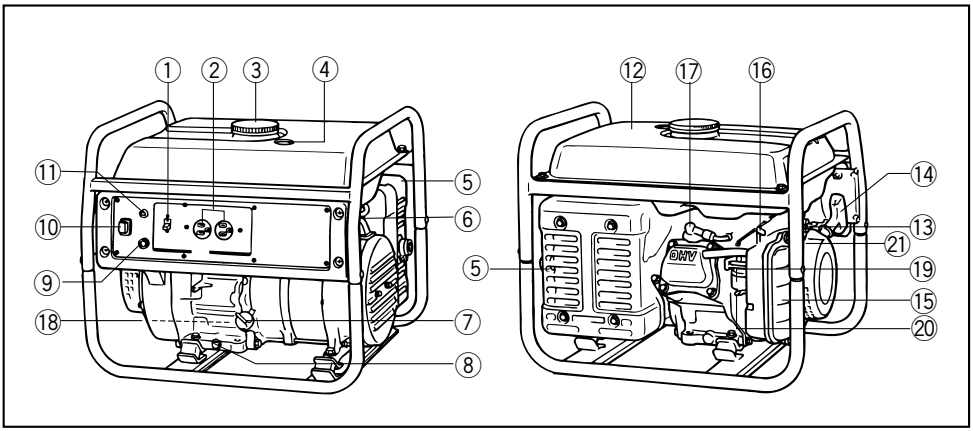
⑨車輪ロック

7TD-24155-00

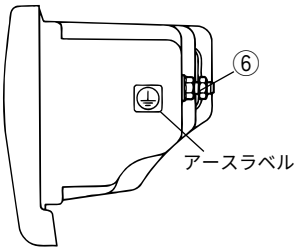
⑩オイル給油限度

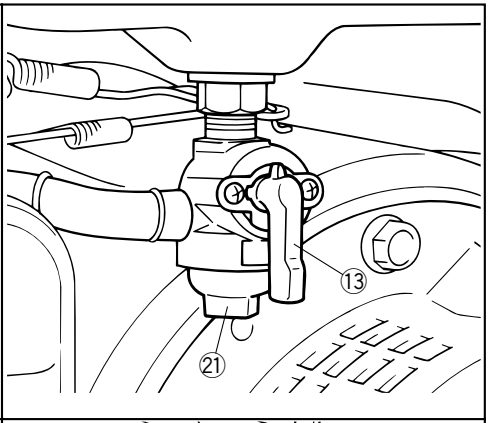
73A-21793-00

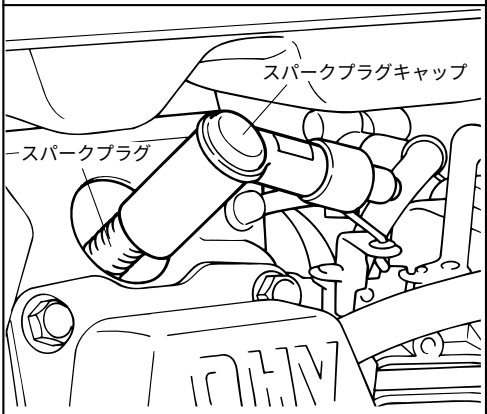
各部の名称（EF1400・EF2300）

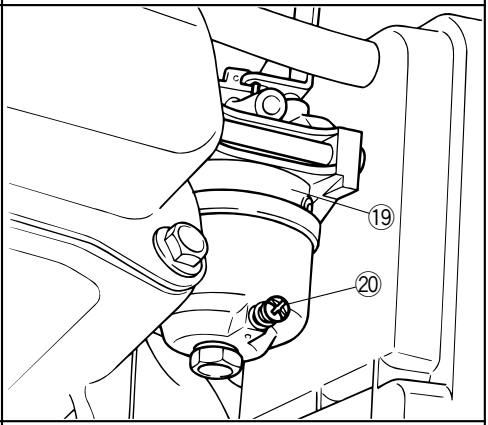


①交流スイッチ
②交流コンセント
③燃料タンクキャップ
④燃料残量計
⑤マフラ
⑥アース
⑦オイルプラグキャップ
（オイル注入口）
⑧オイルドレンボルト
⑨パイロットランプ
⑩エンジンスイッチ
⑪オイル警告ランプ
⑫燃料タンク
⑬燃料コック
⑭リコイルスタータハンドル
⑮エアクリーナ
⑯チョークレバー
⑰スパークプラグ/
スパークプラグキャップ
⑱オイル警告装置
⑲キャブレタ
⑳ドレンスクリュ
㉑ストレーナカップ

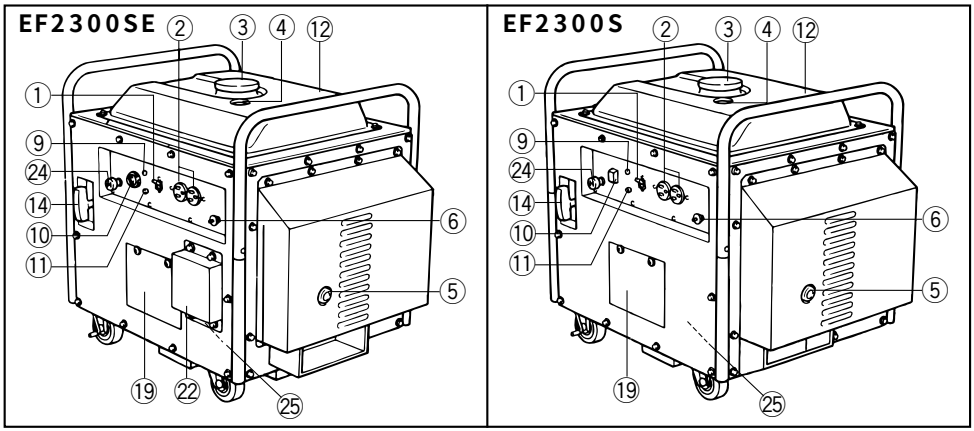

⑥
アースラベル


⑬
㉑


スパークプラグキャップ
スパークプラグ

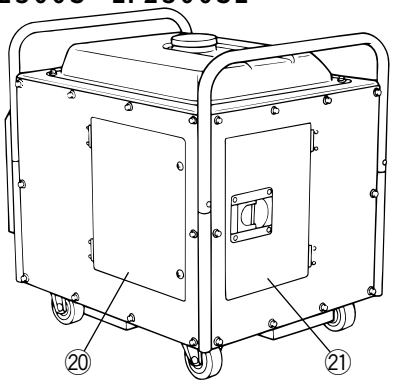

⑲
⑳

各部の名称（EF2300S・EF2300SE）

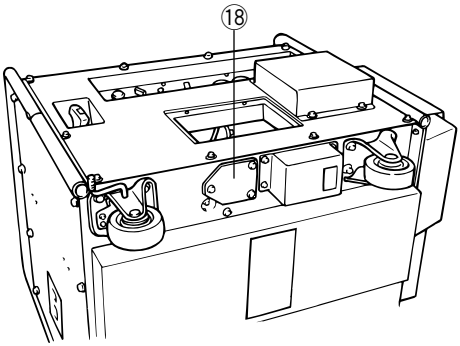


①交流スイッチ
②交流コンセント
③燃料タンクキャップ
④燃料残量計
⑤マフラ
⑥アース
⑦オイルプラグキャップ（オイル注入口）
⑧オイルドレンボルト
⑨パイロットランプ
⑩エンジンスイッチ
⑪オイル警告ランプ
⑫燃料タンク
⑬燃料コック
⑭リコイルスタータハンドル
⑮エアクリーナ
⑯キャブレタ
⑰スパークプラグ/スパークプラグキャップ
⑱オイルドレンボルトカバー
⑲エンジンオイル給油カバー
⑳点検・調整ドア1（スパークプラグ、キャブレタ）
㉑点検・調整ドア2（燃料コック､エアクリーナ）
㉒バッテリカバー
㉓バッテリ
㉔チョークノブ
㉕オイル警告装置
㉖ドレンスクリュ
㉗ストレーナカップ

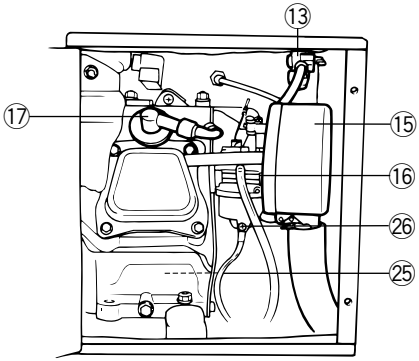
EF2300S • EF2300SE



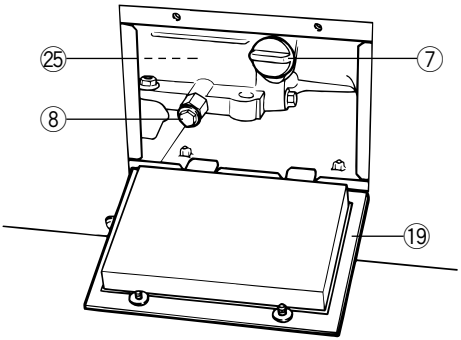
EF2300S • EF2300SE



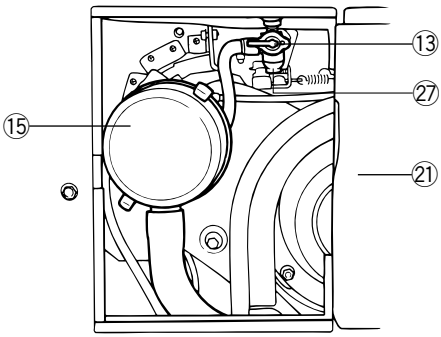
EF2300S • EF2300SE



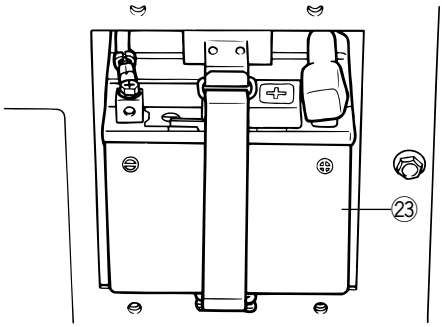
EF2300S • EF2300SE



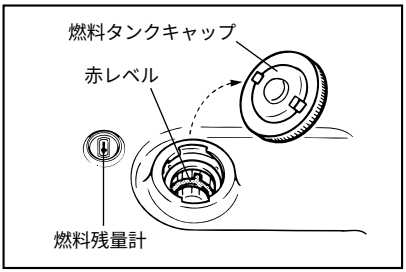
EF2300S • EF2300SE



EF2300SE



給油



- **燃料（無鉛ガソリン）の給油**

  燃料タンクキャップを外し、燃料（無鉛ガソリン）を赤レベルまで給油します。

  燃料タンク内の燃料の残量は燃料残量計により確認できます。

  燃料タンク容量　10　（赤レベルまで）

  使 用 燃 料　無鉛ガソリン（自動車専用ガソリン）

要　点

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早目に補給してください。

⚠警　告

燃料のガソリンは高い引火性と爆発力がありますので、次の事項を必ずお守りください。

- **給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行なってください。**
- **給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また給油ノズルを給油口に当てるなどして静電気が発生しないように注意して行なってください。**
- **燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、ただちに医者の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水でただちに洗い、衣類は取り替えてください。**
- **燃料タンクキャップは確実に締めてください。**

⚠注　意

- **燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷が入らないように注意してください。またこぼれた時は、ただちに布きれ等で完全にふきとってください。**
- **燃料は規定量以上（ストレーナの赤レベル以上）給油しないでください。**

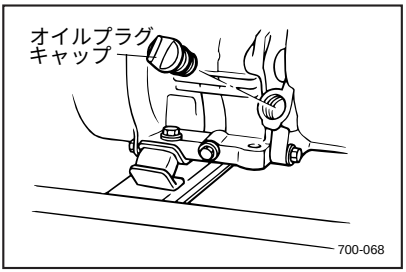
● **エンジンオイルの給油（EF1400・EF2300）**

購入後は､オイルプラグキャップを外し､ヤマハ４サイクルオイルを注入口の口元まで給油します。

オイル量　　６００㎖（６００㎤）

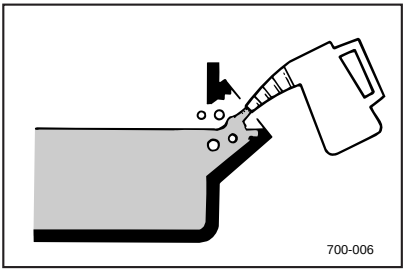
使用オイル　ヤマハ4サイクルオイル

（API分類SE級エンジンオイル
SAE 10W-30）



⚠注　意

工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていません。

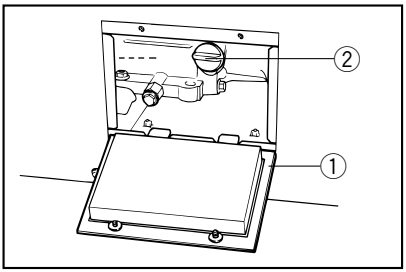


要　点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふきとってください。

給油（つづき）

● **エンジンオイルの給油（EF2300S・EF2300SE）**
購入後は、エンジンオイル給油カバー①を開けてオイルプラグキャップ②を外し、ヤマハ４サイクルオイルを注入口の口元まで給油します。
オイル量　　６００㎖（６００㎤）
使用オイル　ヤマハ4サイクルオイル
（API分類SE級エンジンオイル
SAE 10W-30）

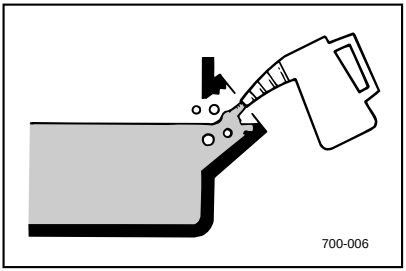


⚠注　意

工場出荷時にはエンジンオイルが給油されていません。

要　点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふきとってください。



● **バッテリ電解液の注液（EF2300SE）**

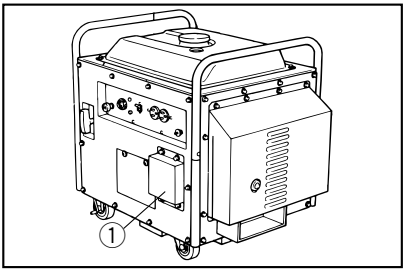
⚠注　意

工場出荷時には、バッテリ電解液は注液されていません。

1.購入後は、バッテリ電解液を注液します。

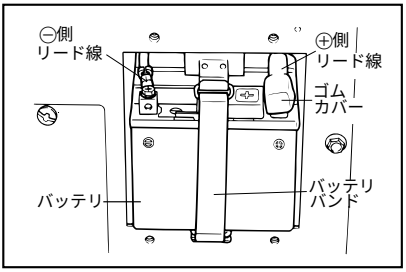
⚠警　告

バッテリ電解液の注液方法は添付の説明書に従ってください。

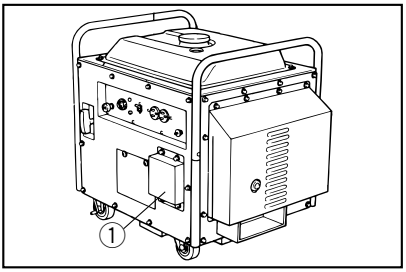


2.バッテリカバー①を外し、バッテリを取付けます。

3.赤印端子（⊕（プラス）側リード線）をバッテリの⊕側に取付けます。
4.ゴムカバーをはめます。
5.黒色端子（⊖(マイナス)側リード線）をバッテリの⊖側に取付けます。
6.バッテリバンドを取付けます。

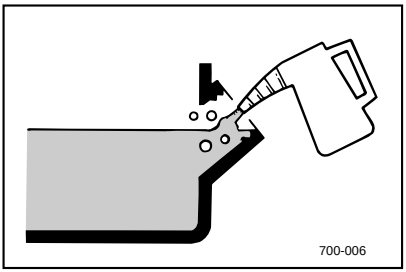


7.バッテリカバー①を取付けます。



● **オイル警告装置**

エンジンオイル量が少なくなって潤滑不足になる前に、自動的にエンジンを停止させます。
エンジンオイル量が少ない状態でエンジンが停止したときは、リコイルスタータハンドルを引いてもエンジンは始動しません。エンジンオイル量を確認しヤマハ４サイクルオイルを注入口の口元まで給油します。

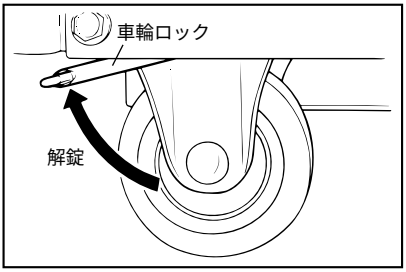


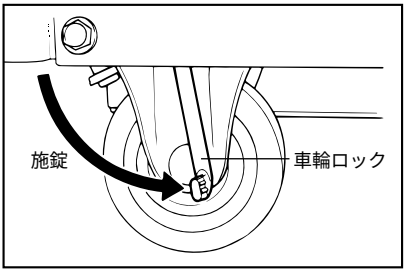
要　点

- **エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。**
- **こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。**

● **車輪ロック（EF2300S・EF2300SE）**

施錠－車輪が固定され本体は動きません。
解錠－車輪の固定が解除され移動できます。

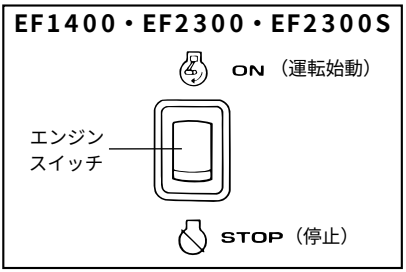


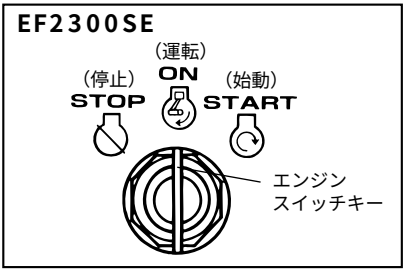


● **エンジンスイッチ**

点火系統を制御しエンジンの始動、停止を行ないます。

STOP（停止）	エンジン停止および保管時の位置です。
ON（運転）	エンジン運転時の位置です。
START（始動）	EF2300SEの場合、セルモータが回転し、エンジンが始動します。





▲注　意

- **セルモータを連続して５秒以上回転させないでください。消費電力が多いためバッテリ上がりの原因となります。**
- **使用しない時は、エンジンスイッチをSTOP（停止）にしキーを抜いてください。**

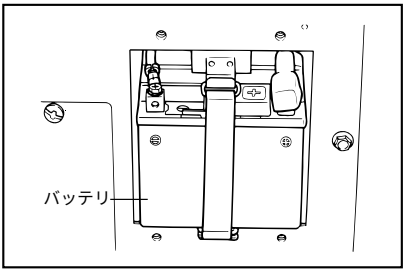
要　点

始動の位置でエンジンがかかったらエンジンスイッチキーを運転の位置に戻してください。

● **バッテリ（EF2300SE）**

この発電機には、密閉式の12V用バッテリが装備されています。

電解液の注液後のバッテリ液の補充は不要です。



▲注　意

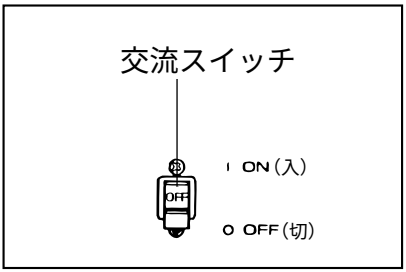
バッテリに異常がある場合は販売店にて点検・整備をお受けください。

各部の取り扱い（つづき）

● **交流スイッチ**

ON（入）── 交流が取り出せます。

OFF（切）── 交流が取り出せません。



▲注　意

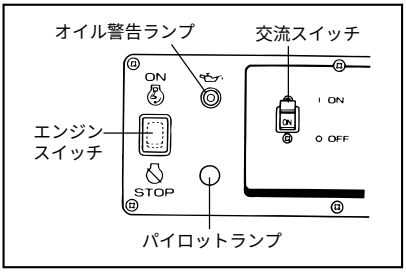
電気機器を使用中に交流スイッチがOFF（切）になる場合は、接続されている負荷を発電機の指定定格出力以内に減らしてください。それでもOFF（切）になる場合はヤマハ販売店に相談してください。

要　点

電気機器を使用中に定格以上の電流が流れると自動的に交流スイッチはOFF（切）になります。再度使用する場合は交流スイッチをON（入）にしてください。

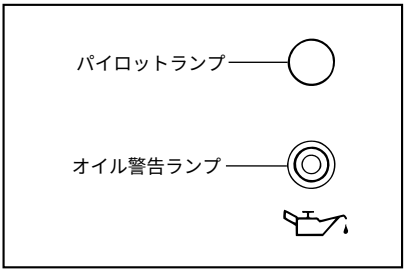
● **オイル警告ランプ（赤色）**

運転中にエンジンオイル量が規定以下になるとオイル警告ランプ（赤色）が点滅し自動的にエンジンが停止します。また、始動時にエンジンオイル量が規定以下になっているとリコイルスタータハンドルを引くかセルスタータ（EF2300SE）を作動させるとオイル警告ランプ（赤色）が点滅し、エンジンは始動しません。



● **パイロットランプ（緑色）**

エンジンを始動し電気が発電されると点灯します。

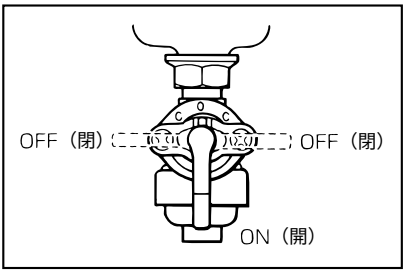


● **燃料コック**

燃料の流れを制御します。

ON（開）──燃料は流れます。
始動および運転時のレバーの位置です。

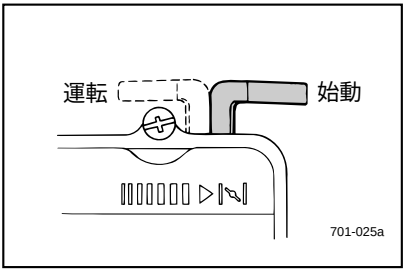
OFF（閉）──燃料は流れません。
停止および保管時のレバーの位置です。



● **チョークレバー（EF1400・EF2300）**

始動 ―エンジンを始動させるときのレバーの位置です。

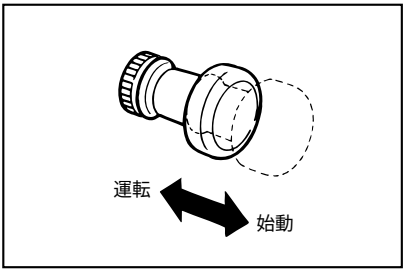
運転 ―エンジンを運転するときのレバーの位置です。



● **チョークノブ（EF2300S・EF2300SE）**

始動 ―エンジンを始動させるときのノブの位置です。

運転 ―エンジンを運転するときのノブの位置です。



● **アース**

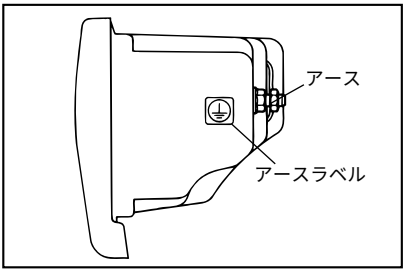
感電防止のため、大地にアースをしてください。

● **リコイルスタータハンドル**

エンジンを始動させる時に使用します。

● **携帯工具**

発電機に携帯工具が同梱されています。点検・調整の際にご使用ください。



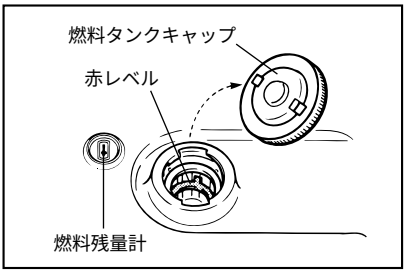
始業点検

● **燃料（無鉛ガソリン）の点検**

燃料残量計もしくは燃料タンクキャップを外して、燃料の残量を点検します。

燃料タンク容量　10　（赤レベルまで）

使 用 燃 料　無鉛ガソリン（自動車用ガソリン）



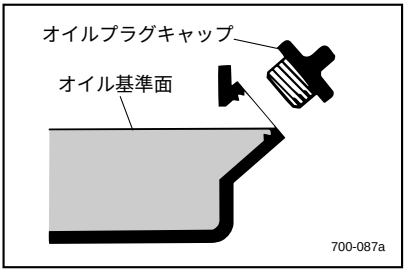
要　点

- 燃料はゆっくりと給油してください。
- 燃料は全部なくなる前に、できるだけ早目に補給してください。

● **エンジンオイルの点検**

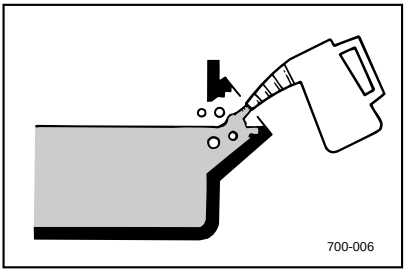
オイルプラグキャップを外してエンジンオイルがオイル基準面まであるか点検します。

エンジンオイルが基準面より少ない場合は、ヤマハ4サイクルオイルを注入口の口元まで給油します。



要　点

- エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。
- こぼれたエンジンオイルは必ずふきとってください。



● **その他の点検**

P34を参照してください。

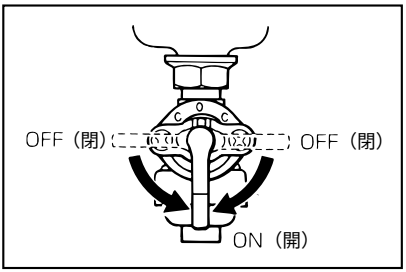
正しい運転操作

● **エンジンの始動（EF1400・EF2300・EF2300S）**

⚠注　意

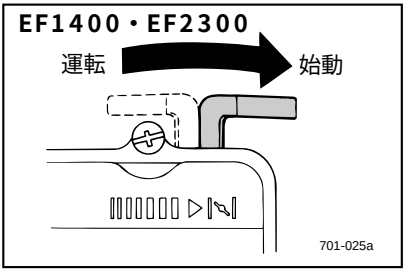
エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

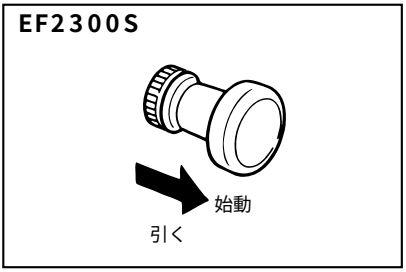
1.燃料（無鉛ガソリン）の量を点検します。
2.燃料コックをON（開）にします。
3.チョークレバーもしくはチョークノブを始動にします。



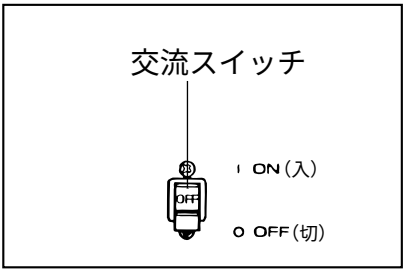
要　点

エンジンが暖まっている時は、チョークレバーもしくはチョークノブを始動にする必要はありません。



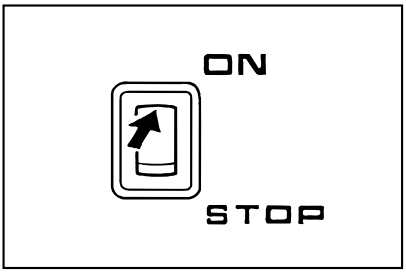


4.交流スイッチを“ OFF ”にします。



正しい運転操作（つづき）

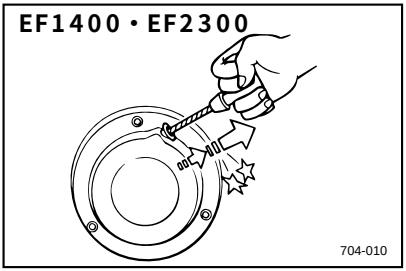
5.エンジンスイッチをON（入）にします。



6.リコイルスタータハンドルを軽く引き出します。
リコイルスタータハンドルが重くなった状態から勢いよく引きエンジンを始動させます。

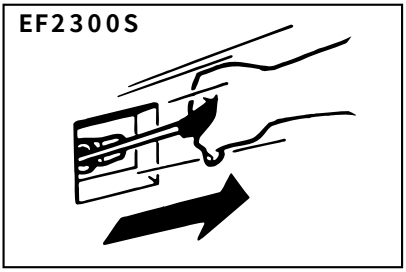
⚠注　意

リコイルスタータハンドルを戻す時はゆっくりと戻してください。

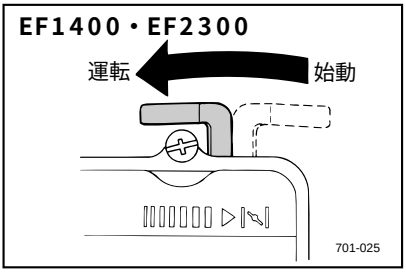


要　点

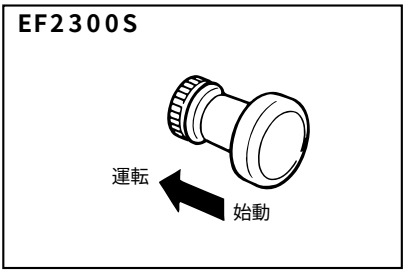
リコイルスタータハンドルを数回引いてエンジンが始動しない時は、チョークレバーもしくはチョークノブを運転にしてリコイルスタータハンドルを引いてください。



7.エンジン回転数が安定したらチョークレバーもしくはチョークノブを運転にします。

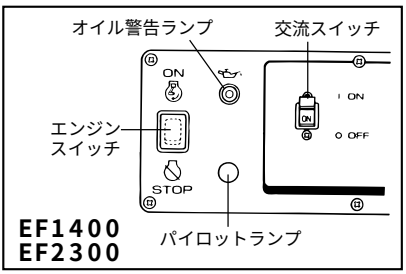


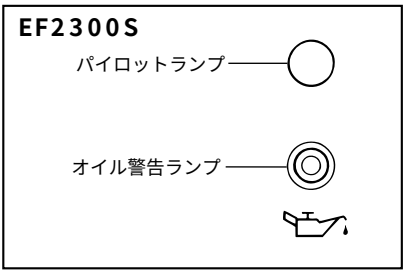
7.エンジン回転数が安定したらチョークレバーもしくはチョークノブを運転にします。



8.しばらく暖機運転します。

9.パイロットランプ（緑色）が点灯しているか確認します。





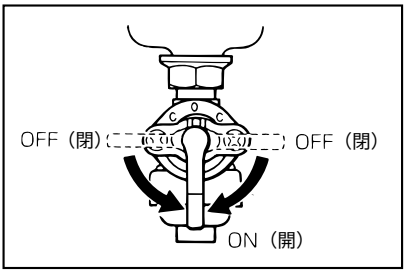
正しい運転操作（つづき）

● **エンジンの始動（EF2300SE）**

⚠注　意

エンジンを始動する前に電気器具を接続しないでください。

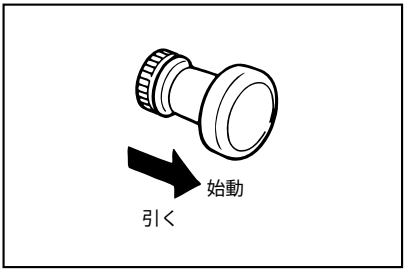
1.燃料（無鉛ガソリン）の量を点検します。
2.燃料コックをON（開）にします。



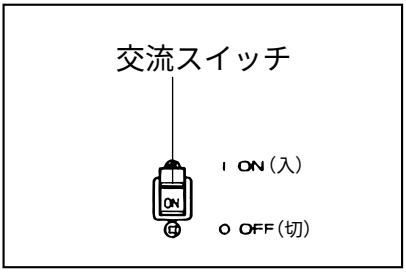
3.チョークノブを引いて始動にします。

要　点

エンジンが暖まっている時は、チョークノブを引いて始動にする必要はありません。



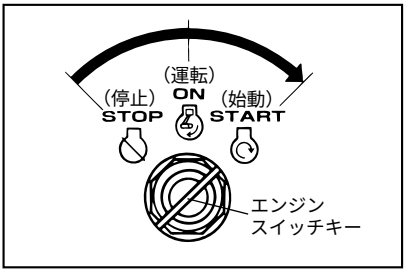
4.交流スイッチを“ OFF ”にします。



5.エンジンスイッチをSTARTの位置にして、エンジンを始動させます。

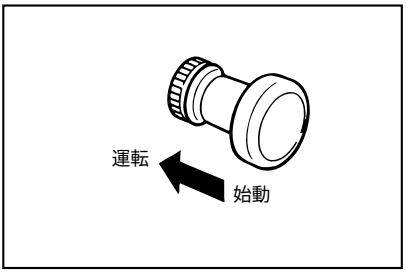
⚠注　意

- **セルモータを連続して５秒以上回転させないでください。消費電力が多いためバッテリ上がりの原因となります。**
- **使用しない時は、エンジンスイッチをストップ（停止）にしキーを抜いてください。**



要　点

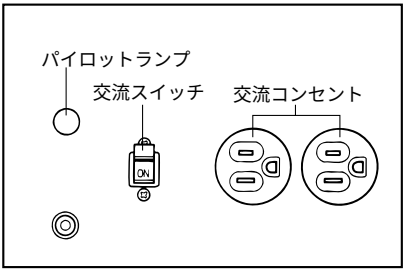
エンジンが始動したらエンジンスイッチキーを運転の位置に戻してください。



6.エンジン回転数が安定したらチョークノブを運転にします。

7.しばらく暖機運転します。

8.パイロットランプ（緑色）が点灯しているか確認します。

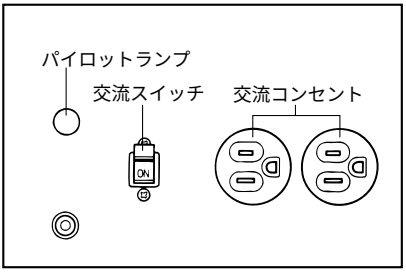


● 交流電源の取りだし方

1.エンジンを始動させます。

要　点

スロットルレバーはありません。この状態で定格出力が得られます。



2.パイロットランプが点灯していることを確認します。

3.消費電流15A以下の電気器具のプラグを交流コンセントに差し込みます。

2口合計消費電流　20A（50Hz仕様）
23A（60Hz仕様）

要　点

電気器具のスイッチがOFF（切）になっていることを必ず確認してから差し込んでください。

4.交流スイッチをON（入）にします。

正しい運転操作（つづき）

● **交流電源の使用可能範囲**

交流電源の使用はおおむね次の電気器具の取だし可能範囲まで使用できます。使用する電気器具の消費電力（W）をお確かめの上ご使用ください。

電気器具	取りだし可能範囲				備考
	EF1400		EF2300・EF2300S・EF2300SE		
	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	
照明・電熱器 ラジオ・テレビ ステレオなど	100V 1200W まで	100V 1400W まで	100V 2000W まで	100V 2300W まで	力率＝1
電動工具類	100V 960W 程度まで	100V 1120W 程度まで	100V 1600W 程度まで	100V 1840W 程度まで	力率＝ 0.8～0.95
汎用モータ類	100V 600W 程度まで	100V 700W 程度まで	100V 1000W 程度まで	100V 1150W 程度まで	力率＝ 0.4～0.75

⚠注　意

- **電気器具の合計負荷が発電機の取りだし可能範囲を超えた過負荷で使用しないでください。発電機損傷の原因となります。**
- **精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類は電圧に敏感で、携帯用発電機からの電圧より均一の電圧供給を必要とするものがあります。このような機器を使用するときには、販売店に相談してください。**
- **医療機器には使用できません。**
- **電気工具類・汎用モーター類の一部には取りだし可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きく使用できないことがあります。この場合は電気器具会社にご相談ください。**

要　点

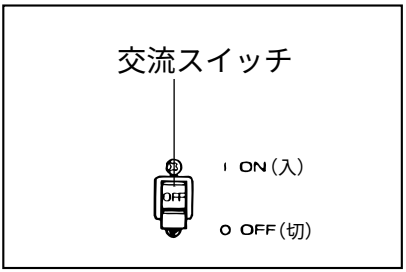
取りだし可能範囲を超えた場合、また電気器具に異常があった場合は、交流プロテクタがOFF（切）になります。

● **エンジンの停止**

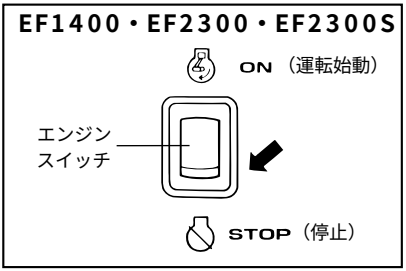
1.電気器具のスイッチをOFF（切）にします。

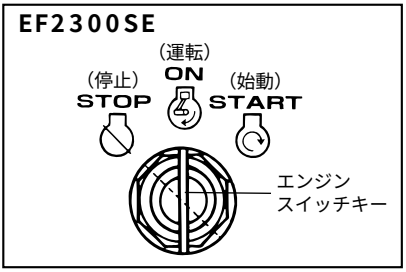
2.電気器具のプラグをコンセントから抜きます。

3.交流スイッチをOFF（切）にします。

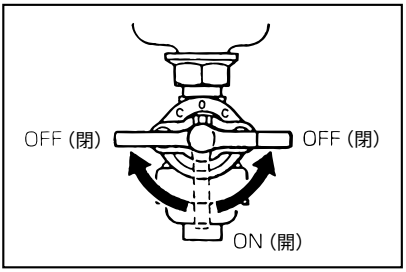


4.エンジンスイッチもしくはエンジンスイッチキーをSTOP（切）にします。





5.燃料コックをOFF（閉）にします。



点検

お客様の安全と、発電機の故障と事故を未然に防ぐために実施してください。

⚠警　告

- **エンジン停止直後は、エンジン本体、マフラ周辺のプロテクタやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。手足を直接触れないでください。**
  火傷にご注意ください。
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はしないでください。**

⚠注　意

- **始業点検・定期点検を怠ると重大な事故・故障の原因となります。**
- **異状が認められた場合は、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行なってください。**

- **始業点検**

  お客様が発電機をご使用するたびに点検を行なってください。
  点検箇所に異常がある場合は、販売店で点検・整備をお受けください。
  1.燃料・エンジンオイルの量、燃料の洩れ、エンジンオイルの汚れ
  2.前回の運転で異常が認められた箇所
  3.エンジンスイッチの作動具合
  4.リコイルスタータの作動具合・スタータロープの損傷
  5.エンジンのかかり具合および異音、排気の状態
  6.コンセントの損傷

- **定期点検**

  お客様のお申しつけにより、お買い上げの販売店（またはヤマハ発電機サービス店）が実施します。お客様の責任で必ず点検を受けてください。

● **点検項目（始業点検・定期点検のときに以下の項目を点検します。）**

点検整備項目			点検整備時期 始業	6か月毎	12か月毎	点検整備項目			点検整備時期 始業	6か月毎	12か月毎
電気装置	点火装置	点火プラグ、電極の焼け具合		○	○	原動機	燃料装置	燃料漏れ	○	○	○
		点火プラグ、電極の清掃		○	○			燃料の量	○		
	電気配線	高圧コードの損傷		○	○			チョークの作動具合	○	○	○
	ランプ	オイル警告ランプの作動	○	○	○			キャブレタの調整		○	○
		パイロットランプの作動	○	○	○			フュエルストレーナカップの清掃		○	○
原動機	本体	スタータハンドルの作動具合	○	○	○			フュエルパイプの亀裂、損傷		○	○
		スタータロープの損傷	○	○	○		潤滑装置	エンジンオイルの量、洩れ	○	○	○
		エンジンのかかり具合および異音	○	○	○			オイル交換		○	○
		排気の状態	○	○	○	発電機	発電装置	過電流保護装置の損傷	○	○	○
		圧縮圧力			○			コンセントの損傷	○	○	○
		エアクリーナエレメントの状態		○	○	その他	マフラ	マフラの機能			○
		カーボン除去（シリンダヘッド部）			○			マフラ取付部のゆるみ、損傷		○	○
		バルブクリアランスの測定			○			本体各部の締付		○	○
								各部の給油脂		○	○

注）「○」印は点検時期を示します。

定期運転・定期交換

格納中であっても発電機を緊急で使用することが予測される場合は、ここに示す定期運転、定期交換を行なって緊急時に備えてください。

● **定期運転**

1ヶ月に1度定期的に発電機を運転（約10分位）し、電気器具を接続して運転状態を点検してください。

● **定期交換**

燃料をいつも満タンの状態で保管する場合は、燃料の変質による始動不良を防止するため3ヶ月に1回は燃料タンク内の燃料を交換してください。

⚠注　意

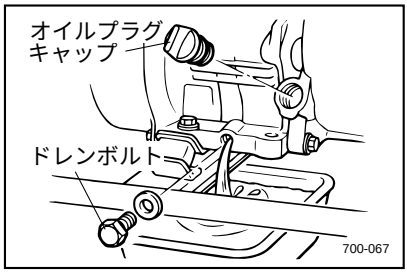
- **本書での指示なき作業等を行なう時にも、必ずエンジンを止めてください。**
- **お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、ヤマハ販売店へ作業を依頼してください。**

交換部品は、必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

やさしい点検・調整

● **エンジンオイルの交換（EF1400・EF2300）**

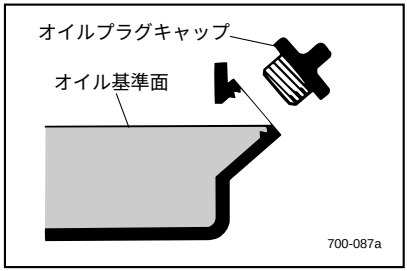
1.エンジンを始動し２～３分暖機運転します。
2.オイルドレンボルトを外します。
3.発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。



要　点

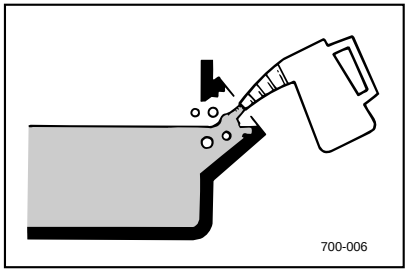
初回は20時間目、その後は100時間毎に交換します。

4.オイルドレンボルトを締め付けます。
5.オイルプラグキャップを外して、新しいヤマハ４サイクルオイルを注入口の口元まで給油します。
オイル量　600㎖（600㎤）
使用オイル　ヤマハ4サイクルオイル
（API分類SE級・エンジンオイル
SAE 10W-30）

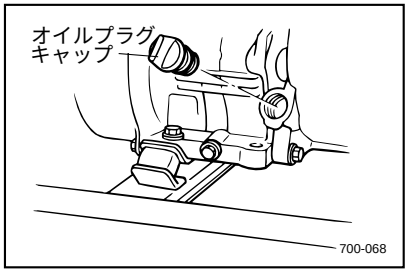


要　点

- **エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。**
- **こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。**

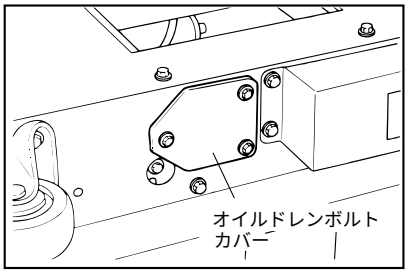


6.オイルプラグキャップを締め付けます。

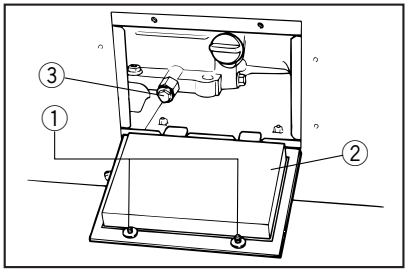


● **エンジンオイルの交換（EF2300S・EF2300SE）**

1.エンジンを始動し２～３分暖機運転します。
2.オイルドレンボルトカバーを取外します。



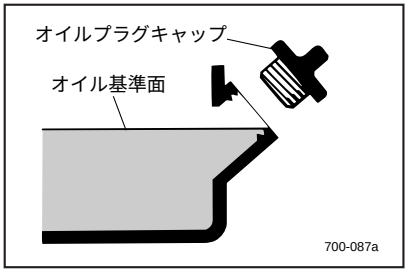
3.取付スクリュ①を弛めてエンジンオイル給油カバー②を開けます。
4.オイルドレンボルト③を外します。
5.発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。



要　　点

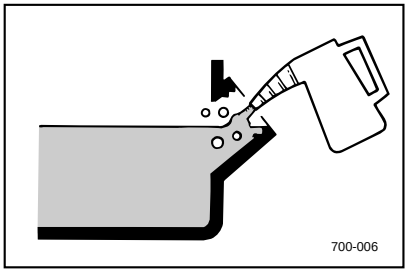
初回は20時間目、その後は100時間毎に交換します。

6.オイルドレンボルトを締め付けます。
7.オイルプラグキャップを外して、新しいヤマハ４サイクルオイルを注入口の口元まで給油します。
オイル量　600㎖（600㎤）
使用オイル　ヤマハ4サイクルオイル
（API分類SE級・エンジンオイル
SAE 10W-30）



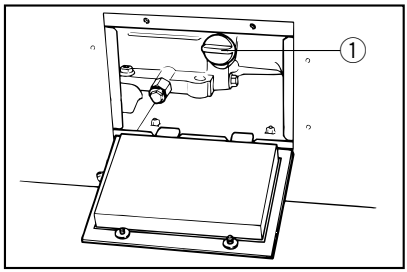
要　　点

- **エンジンオイルの給油は発電機本体を水平状態で行なってください。**
- **こぼれたエンジンオイルは必ずふき取ってください。**

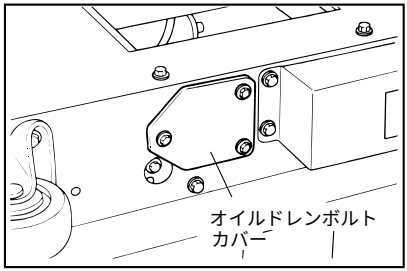


やさしい点検・調整（つづき）

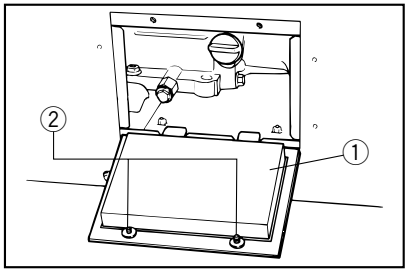
8.オイルプラグキャップ①を締め付けます。



9.オイルドレンボルトカバーを取付けます。



10.エンジンオイル給油カバー①を取付け、取付けスクリュ②を締め付けます。



● **スパークプラグの点検と清掃**
スパークプラグは、点検が簡単な重要部品です。
スパークプラグは、徐々に劣化しますので、定期的に外して点検を行なう必要があります。

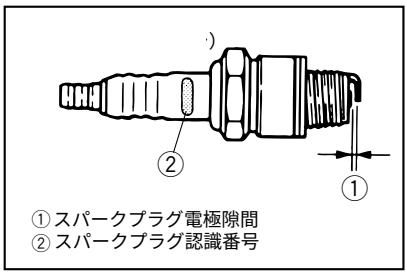
1.スパークプラグを外します。

⚠警　告

スパークプラグの脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。
碍子が損傷すると、電気がもれて火災等を誘発する恐れがあります。

2.スパークプラグの焼け具合を見ます。
通常はキツネ色に焼けますが黒くくすぶっていたり白く焼けていた時はエアクリーナを点検します。
3.電極付近の汚れ（カーボン）を落とします。

4.電極隙間を点検します。
スパークプラグ　　NGK　BPR4ES
電　極　隙　間　　0.6～0.7mm
5.スパークプラグを締め付けます。



①スパークプラグ電極隙間
②スパークプラグ認識番号

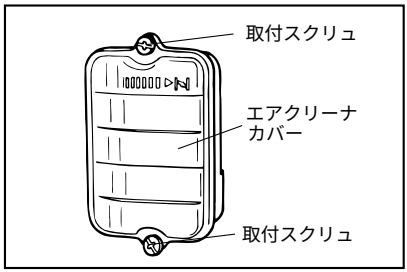
要　点

新しいスパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できない時は、指でいっぱいに締め込んだ後、プラグレンチを使って1／4～1／2回転更に締め込んでください。
できるだけ早い時期に、トルクレンチを使って正規の値で締めてください。

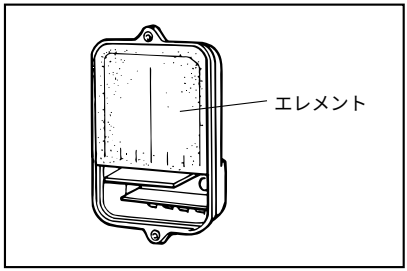
やさしい点検・調整（つづき）

● エアクリーナエレメントの清掃
（EF1400・EF2300）

1.取付けスクリュを弛めます。
2.エアクリーナカバーを外します。



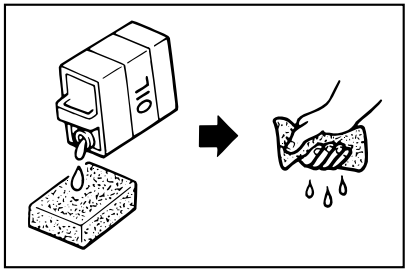
3.エレメントを外します。
4.エレメントをきれいな洗浄油で洗浄します。



要　点

- 油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行なうことが義務づけられていますのでヤマハ販売店へご相談ください。
- ほこりのひどい場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

5.エレメントをエンジンオイル等にひたし、その後余分なオイルを取り除きます。



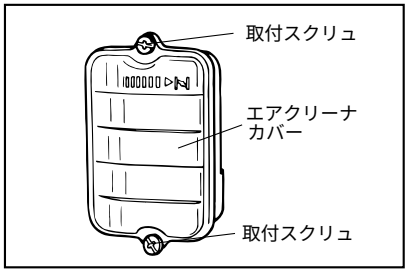
⚠注　意

エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。

6.エレメントをエアクリーナ本体にはめ込みます。

⚠注　意

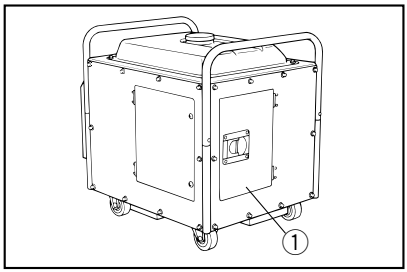
エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。



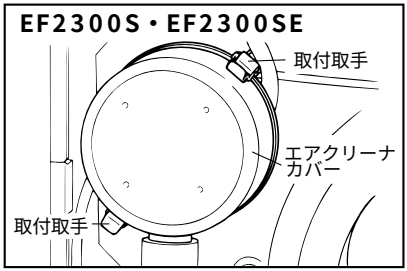
7.エアクリーナカバーを確実に押し込んで取り付けます。
8.取り付けスクリュを締め付けます。

● **エアクリーナエレメントの清掃**
(EF2300S・EF2300SE)

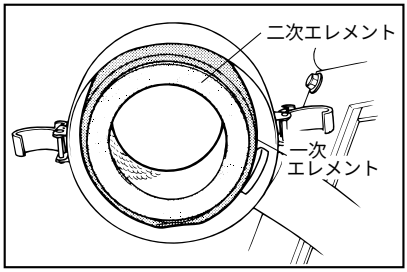
1.点検・調整ドア①を開けます。



2.取付取手を弛めて、エアクリーナカバーを外します。



3.一次、二次エレメントを外します。



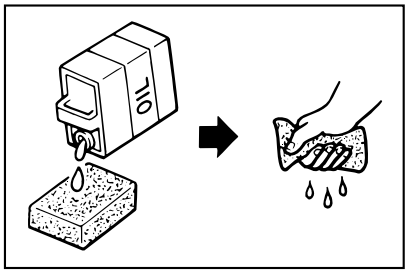
4.一次エレメント(ウレタンフォーム）と二次エレメント(不織布)を取り出し別々に洗浄油(白灯油)で洗浄します。

要　点

- 油脂類の廃液は法令（公害防止条例）で適切な処理を行なうことが義務づけられていますのでヤマハ販売店へご相談ください。
- ほこりのひどい場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

やさしい点検・調整（つづき）

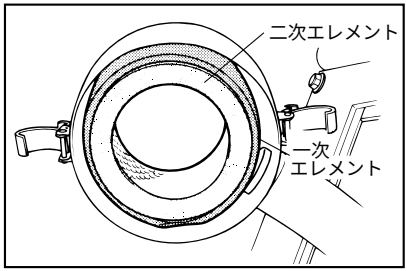
5.エレメントを混合油（白灯油3：エンジンオイル1）に浸した後、点滴しない程度によく振り切ります。



⚠注　意

エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。

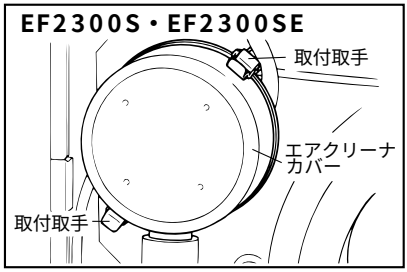
6.一次エレメントを二次エレメントにはめます。



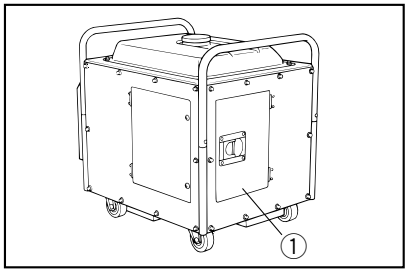
⚠注　意

エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。

7.エアクリーナカバーを押し込んで組付け、取付取手で固定します。



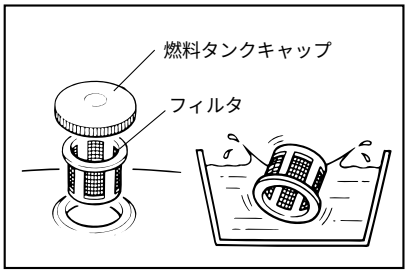
8.点検・調整ドア①を閉めます。



● **燃料タンクフィルタの清掃**

1.燃料タンクキャップおよびフィルタを取り外します。

2.溶剤を使ってフィルタを洗浄します。

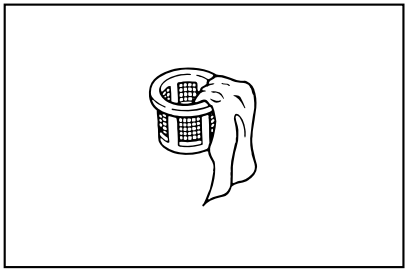


要　点

フィルタが破損している場合は新品と交換します。

3.フィルタを拭いて挿入します。

4.燃料タンクキャップを取り付けます。



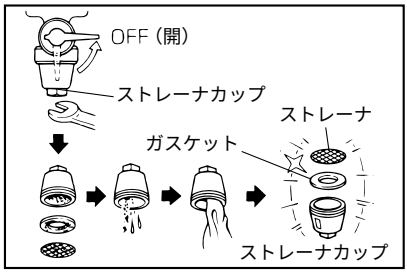
⚠警　告

燃料タンクキャップはしっかりと締め付けてください。

やさしい点検・調整（つづき）

● フューエルストレーナの清掃

1.燃料コックをOFF（閉）にします。
2.ストレーナカップを取り外します。



要　点

ストレーナカップにゴミがある場合は定期点検時期より早めに清掃してください。

3.ガスケット、ストレーナを取り外します。
4.ストレーナカップ、ストレーナをガソリンで洗浄します。

⚠警　告

タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。

5.ガスケットを点検します。

要　点

ガスケットが破損している場合は新品と交換します。

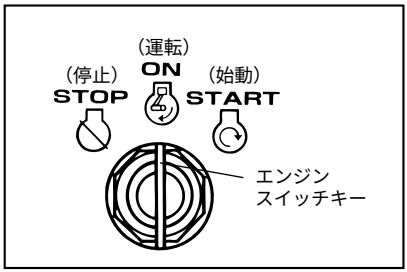
6.ストレーナ、ガスケットおよびストレーナカップを取り付けます。
7.取付後は燃料漏れがないことを確認します。

⚠警　告

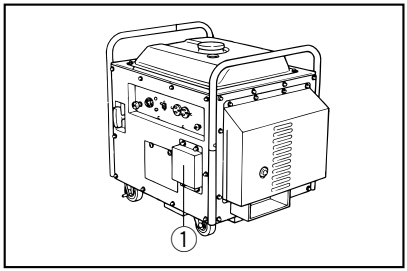
取り付けが悪いと燃料もれをおこし、火災や爆発の原因になる恐れがあります。

● **バッテリの点検（EF2300SE）**

1.エンジンスイッチをSTOP（停止）にします。
2.エンジンスイッチキーを抜きます。



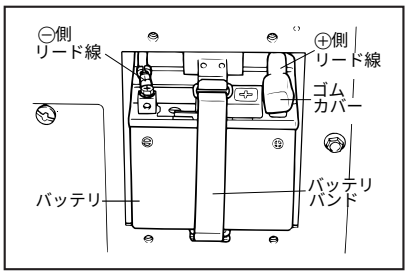
3.バッテリカバー①を取外します。



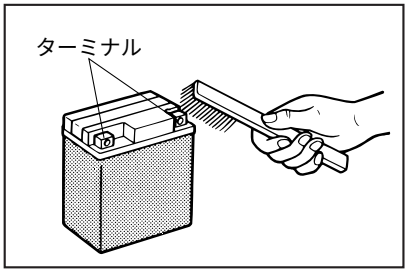
4.バッテリバンドを外します。

5.㊀(マイナス）側リード線を外します。
6.ゴムカバーをめくり⊕(プラス）側リード線を外します

7.バッテリを取外します。



8.ターミナル部に汚れや腐食があるときはやわらかいブラシ等で清掃してください。またターミナル部に白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ってください。



やさしい点検・調整（つづき）

⚠警　告

- バッテリの取り扱いにご注意ください。
- バッテリは引火性ガスを発生しますので、取り扱いを誤ると爆発や大けがをすることがあります。（特に保守・点検・充電・ブースターケーブル使用時には、危険のないように取り扱ってください。）
  - ○火気厳禁……ショートやスパーク、たばこ等の火気を近づけないでください。＜爆発＞
  - ○通風のよい所で……閉めきった場所での使用や充電は危険です。＜爆発＞
  - ○バッテリ液は希硫酸……皮膚・目・衣服につくと危険です。＜火傷・失明等＞
- 規定以外のバッテリは使用しないでください。
- 応急手当
  - ■万一、バッテリ液が皮膚・衣服についた時は多量の水で洗い流してください。
  - ■目に入った時はただちに多量の水で15分以上洗い医師の治療を受けてください。

⚠注　意

この12Vバッテリは充電済です。
液量点検及び補液は必要ありません。
次の点に特にご注意ください。

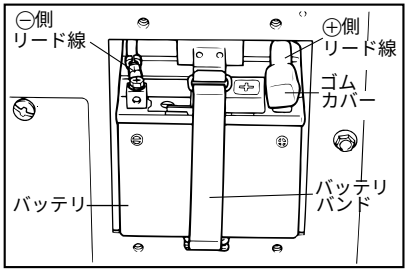
- このバッテリは密閉式バッテリ仕様でない商品には使用しないでください。
- 補充電には密閉式バッテリ専用充電器を使用してください。
- 密閉式バッテリ専用充電器以外で補充電される場合は過充電防止のため、下記の方法を厳守してください。

充電方法	標準　0.5A×5～10時間 急速充電は厳禁

- **長期間ご使用にならない場合は、6か月ごとに補充電してください。**
- **バッテリを交換する場合は、必ず同型式のバッテリをご使用ください。**

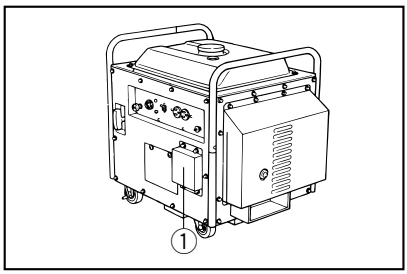
9.バッテリを取付けます。

10.赤印端子をバッテリの⊕(プラス)側に取付けます。
11.ゴムカバーをはめます。
12.黒色端子をバッテリの⊖(マイナス)側に取付けます。



13.バッテリバンドを取付けます。

14.バッテリカバー①を取付けます。



故障診断

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは取り扱いの不慣れや点検の不十分に起因しています。故障が生じた時はヤマハ販売店にご相談ください。

下記には最も考えられる故障を選びその想定される原因を列記しました。故障診断が不安な時は、できるだけそのままの状態でヤマハ販売店に連絡し専門技術者にご相談ください。

● エンジンが始動しない

1.燃料系統（燃焼室に燃料が供給されていない）

燃料タンクが空になっている .....燃料を補給する。

燃料パイプが目詰まりしている .....燃料パイプを清掃する。
または販売店に相談する。

燃料コックに異物が混入している .....燃料コックを清掃する。
または販売店に相談する。

キャブレタが目詰まりしている .....キャブレタを清掃する。
または販売店に相談する。

2.電気系統（火花不足）

スパークプラグが汚れている .....スパークプラグを乾燥させて清掃する。

スパークプラグにカーボンが付着している ....カーボンを除去する。

点火系統が不良 .....販売店に相談する。

セルモーターが回転しにくい
（EF2300SE）.....バッテリの容量不足、販売店に相談する。

3.圧縮系統（圧縮不足、洩れ）.....販売店に相談する。

4.潤滑系統（オイル不足）

リコイルスタータを引くかもしくは
セルスタータを作動させるとオイル
警告ランプが点滅する .....エンジンオイルを補給する。

● 電気が出ない

交流スイッチがOFF（切）になっている.....交流スイッチをON（入）にする。

仕様諸元

名　　称			EF1400		
形式			2極回転界磁形単相交流発電機		
電圧調整方式			コンデンサ補償式		
励磁方式			自己励磁式		
力率			1.0		
発電機	交流	定格周波数	50Hz/60Hz		
		定格出力	1.2kVA/1.4kVA		
		定格電圧	100V		
		定格電流	12A/14A		
	直流	定格出力	無		
		定格電圧	無		
		定格電流	無		
装備	駆動方式		エンジン直結		
	交流コンセント		2		
	交流過電流保護装置		ノンヒューズブレーカ (N.F.B)		
	直流コンセント		無		
	直流過電流保護装置		無		
エンジン	エンジン種類		空冷4サイクルガソリンエンジン		
	調速機形式		遠心重錘式		
	冷却方式		強制空冷式		
	点火方式		トランジスタ式マグネト（T.C.I点火）		
	スパークプラグ		NGK・BPR4ES		
	プラグキャップ		0.7～0.8		
	エアクリーナ方式		半湿式（ウレタンフォーム）		
	総排気量		123m （123 ）		
	使用燃料		無鉛ガソリン（自動車用ガソリン）		
	潤滑方式		強制飛沫式		
	使用潤滑油		API分類SE級エンジンオイル(SAE 10W-30)		
	使用潤滑油容量		600m （600 ）		
	始動方式		リコイル式		
燃料タンク容量（赤レベル）			10		
定格連続運転時間（赤レベル）			約12.9時間/約11.3時間		
乾燥重量			38kg		
全長×全幅×全高			510×415×425mm		
騒音レベル（7m）			63dB(A)/65dB(A)		

＊この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。
＊騒音レベルは7m・4方向測定の平均値です。

仕様諸元

名　　称			EF2300	EF2300S	EF2300SE
形式			2極回転界磁形単相交流発電機	2極回転界磁形単相交流発電機	2極回転界磁形単相交流発電機
電圧調整方式			コンデンサ補償式	コンデンサ補償式	コンデンサ補償式
励磁方式			自己励磁式	自己励磁式	自己励磁式
力率			1.0	1.0	1.0
発電機	交流	定格周波数	50Hz/60Hz	50Hz/60Hz	50Hz/60Hz
		定格出力	2.0kVA/2.3kVA	2.0kVA/2.3kVA	2.0kVA/2.3kVA
		定格電圧	100V	100V	100V
		定格電流	20A/23A	20A/23A	20A/23A
	直流	定格出力	無	無	無
		定格電圧	無	無	無
		定格電流	無	無	無
装備	駆動方式		エンジン直結	エンジン直結	エンジン直結
	交流コンセント		2	2	2
	交流過電流保護装置		ノンヒューズブレーカ (N.F.B)	ノンヒューズブレーカ (N.F.B)	ノンヒューズブレーカ (N.F.B)
	直流コンセント		無	無	無
	直流過電流保護装置		無	無	無
エンジン	エンジン種類		空冷４サイクルガソリンエンジン	空冷４サイクルガソリンエンジン	空冷４サイクルガソリンエンジン
	調速機形式		遠心重錘式	遠心重錘式	遠心重錘式
	冷却方式		強制空冷式	強制空冷式	強制空冷式
	点火方式		トランジスタ式マグネト（T.C.I点火）	トランジスタ式マグネト（T.C.I点火）	トランジスタ式マグネト（T.C.I点火）
	スパークプラグ		NGK・BPR4ES	NGK・BPR4ES	NGK・BPR4ES
	プラグキャップ		0.7～0.8	0.7～0.8	0.7～0.8
	エアクリーナ方式		半湿式（ウレタンフォーム）	半湿式（ウレタンフォーム）	半湿式（ウレタンフォーム）
	総排気量		171m（171 ）	171m（171 ）	171m（171 ）
	使用燃料		無鉛ガソリン（自動車用ガソリン）	無鉛ガソリン（自動車用ガソリン）	無鉛ガソリン（自動車用ガソリン）
	潤滑方式		強制飛沫式	強制飛沫式	強制飛沫式
	使用潤滑油		API分類SE級エンジンオイル(SAE 10W-30)	API分類SE級エンジンオイル(SAE 10W-30)	API分類SE級エンジンオイル(SAE 10W-30)
	使用潤滑油容量		600m（600 ）	600m（600 ）	600m（600 ）
	始動方式		リコイル式	リコイル式	セルスタータ／リコイル併用式
燃料タンク容量（赤レベル）			10	10	10
定格連続運転時間（赤レベル）			約8.8時間/約7.5時間	約7.3時間/約6.9時間	約7.3時間/約6.9時間
乾燥重量			41kg	76kg	81kg
全長×全幅×全高			510×415×425mm	669×482×585mm	669×511×585mm
騒音レベル（7m）			65dB(A)/67dB(A)	46dB(A)/48dB(A)	46dB(A)/48dB(A)
バッテリ			無	無	YUASA・YTX5L－BS
			無	無	12V4Ah (10HR)

＊この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。
＊騒音レベルは7m・4方向測定の平均値です。

索引

記号

⚠警告 ……P4
⚠警告シンボルマーク ……表紙裏
⚠警告ラベル ……P10,12
⚠注意 ……P5
⚠注意シンボルマーク ……表紙裏
⚠注意ラベル ……P10,12

あ行

アース ……P14,16,25
安全にお使いいただくために ……P4
エアクリーナエレメントの清掃 ……P40~42
エアクリーナ ……P14,16
エンジンオイル給油カバー ……P16
エンジンオイルの給油 ……P19,20
エンジンオイルの交換 ……P36~38
エンジンオイルの点検 ……P26
エンジンが始動しない ……P48
エンジンスイッチ ……P14,16,23
エンジンの始動 ……P27~31
エンジンの停止 ……P33
オイル警告装置 ……P14,16,22
オイル警告ランプ ……P14,16,24
オイルプラグキャップ ……P14,16
オイルドレンボルト ……P14,16
オイルドレンボルトカバー ……P16
お客様ご相談窓口のご案内 ……P2
おねがい ……表紙裏

か行

格納 ……P6,8
各部の取り扱い ……P22
各部の名称 ……P14~17
環境への配慮 ……P5
キャブレタ ……P14,16
給油 ……P18
携帯工具 ……P25
交流コンセント ……P14,16
交流電源の使用可能範囲 ……P32
交流電源の取り出し方 ……P31
交流スイッチ ……P14,16,24
故障診断 ……P48

さ行

識別番号 ……P1,11,13
識別番号ラベル ……P1
始業点検 ……P26,34
車輪ロック ……P22
重要ラベル ……P10~13
仕様諸元 ……P49,50
ストレーナカップ ……P14,16
スパークプラグ ……P14,16
スパークプラグキャップ ……P14,16
スパークプラグの点検と清掃 ……P39
整備ご相談窓口のご案内 ……P2
その他の点検 ……P26
その他ラベル ……P11,13

た行

正しい運転操作 ……P27
チョークノブ ……P16,25
チョークレバー ……P14,25
定期運転 ……P35
定期交換 ……P35
定期点検 ……P34
定期点検ご相談窓口のご案内 ……P2
電気が出ない ……P48
点検 ……P34
点検項目 ……P35
点検・調整ドア1 ……P16
点検・調整ドア2 ……P16
ドレンスクリュ ……P14,16

な行

燃料残量計 ……P14,16
燃料コック ……P14,16,25
燃料タンク ……P14,16
燃料タンクキャップ ……P14,16
燃料タンクフィルタの清掃 ……P43
燃料（無鉛ガソリン）の給油 ……P18
燃料（無鉛ガソリン）の点検 ……P26

は行

パイロットランプ ……P14,16,24
バッテリ ……P16,23
バッテリカバー ……P16
バッテリ電解液の注液 ……P21
バッテリの点検 ……P45~47
フュエルストレーナの清掃 ……P44
保管 ……P6
本体識別番号 ……P1

ま行

マフラ ……P14,16
目次 ……P3

や行

やさしい点検・調整 ……P36
要点シンボルマーク ……表紙裏

ら行

リコイルスタータハンドル ……P14,16,25

YAMAHA
ヤマハ発動機株式会社
〒438-8501静岡県磐田市新貝2500
特機事業部 TEL0538(37)4410
99.06－1

再生紙を使用しています